

中嶋 嶺雄編

『中国現代史』

— 壮大なる歴史のドラマ —

アヘン戦争から人民共和国まで

評者 今堀 誠二

昭和三〇年ごろ、評者は榮孟源『中国百年革命史畧』を教科書に、広島大学で政治史の講義をしていた。同書が中国革命の本質に迫ろうとする気魄にみちていたからである。評者は早くから、毛沢東選集は毛沢東思

想にカリスマ性を賦与するため、彼の一部の著作をバイブルに作り直したものであって、歴史記録ではないという見解をもっていた。だから歴史研究には、選集から除外された著作を再発見するとともに、選集に収められたものはウルテクニスト(初出の原本)に当たってそれを

利用すべきだと主張して来た。講義ではこうした操作を経て導き出される史実を、榮孟源と対比しつつ、解説していった。一九五六年に発表した「毛沢東氏における階級区分の史的発展」や、六六年の『毛沢東研究序説』は、その一部である。

中嶋嶺雄編『中国現代史』を手にした時、今度はこれを教科書に使用したいと思った。本書は、第1章がアヘン戦争から義和団までを扱い、今永清二氏が執筆している。2章は辛亥革命で中村義氏、3章は中華民国初期で本庄比佐子氏、4章は国民革命で山田辰雄氏、5章はソビエト時代で蜂屋亮子氏、6章は延安時代で徳田教之氏、7章は中華人民共和国の成立までで井

尻秀憲氏、8章は人民共和国史で、巻頭の「現代中国への視角」とともに編著者中嶋氏の担当である。

この陣容を見ただけで、立派な本だろうという推察がつく。中国はこの二五五年間、激動を続けたが、以上の八氏はこの中で立派な論文を書き続けて来たからである。

もちろん、教科書に使うとすれば、榮孟源の場合と同じく、一つ一つコメントをつけながら、講義を進めることになる。本書の巻末に参考文献が載っているが、毛沢東の論著では選集第一巻だけがあがっている。毛沢東を抜きにして、中国現代史を論ずることが出来ない以上、『新民主主義論』などの

重要な著作をウルテクニストに拠って列挙すべきであり、少なくとも竹内実監修『毛沢東集』全一〇巻をあげる必要がある。「毛沢東思想万才」をオミットするのも妥当とは言えない。研究書においても福島正夫『中国の人民民主主義政権』など必要不可欠ものがかなり脱落している。講義ではこれらを援用しながら、重要問題を掘り下げたいというのが、評者の考えである。

はしがきによれば、本書は次の五項目により、特徴を示そうとする。

ながじま みねお 一九三六年
長野県生まれ。東京外国語大学教授。著書に『現代中国論』『新冷戦の時代』など。

農 林 統 計 協 会

56年度白書シリーズ 農林統計協会編

● 図説

農業白書

A5 定価 一、七〇〇円

● 図説

林業白書

A5 定価 一、七〇〇円

● 図説

漁業白書

A5 定価 一、五〇〇円

世界の食糧と異常気象

久保祐雄・谷信輝編著

A5 三、〇〇〇円 下300

食糧需要の増大と戦略物資化の中で異常気象の多発は世界の食糧需給に重大な影を落している。本書は農水省における異常気象対応技術の確立に関する総合研究を基に最新資料を一堂に集めた力作。

農産物の需要予測と生産計画

全国農業協同組合中央会編

A5 二、〇〇〇円 下300

農産物の需要と生産計画の必要性の声にこたえ、約一〇〇の作目につき需要予測の方法と実際を解説した関係者待望の手引書。

〒153 東京都目黒区目黒2-11-14
電話03(492)2987 振替 東京9-70255